

平成 18 年度 A 級修了研究レポート

「クオリティー オブ ミュージックライフ」

社会の変動と生涯音楽学習

活動地域: 兵庫県

専門分野: 洋 楽

18A-0217

岩崎 久仁子

目次

| | |
|---------------------------------------|-----------|
| はじめに 研究の目的 | 1 |
| 第1章 変容する社会における生涯音楽学習の必要性 | 2 |
| 1. 審議会答申に見る、日本における生涯学習の変遷 /2 | |
| 2. 生涯学習社会形成のプロセスと音楽教育、音楽学習 /3 | |
| 第2章 「西宮子ども音楽セミナー」の実践と評価 | 5 |
| 1. 「西宮子ども音楽セミナー」の概要 /5 | |
| 2. 児童アンケートによる分析 /5 | |
| (1) 学習プログラムの検証 /6 | |
| (2) 児童の感じ方 /6 | |
| 受講児童の満足度 /6 | |
| 仲間づくり、居場所づくりが実現できたか /7 | |
| 3. 保護者のアンケートの分析 /8 | |
| (1) 回答者の性別・年齢 /8 | |
| (2) 学習需要の把握 /8 | |
| (3) セミナーの課題と展望 /10 | |
| 4. 「西宮子ども音楽セミナー」の学習評価と分析 /12 | |
| (1) 学習内容 /12 | |
| (2) 学習意欲の喚起 /13 | |
| 第3章 生涯学習社会における生涯音楽学習 | 14 |
| 1. 生涯学習音楽指導の課題 /14 | |
| (1) 使命(ミッション)の共有 /14 | |
| (2) ヴィジョンの創造 /14 | |
| (3) 参画協働の主体としてのネットワーク /14 | |
| (4) ファシリテーターとしての役割 /14 | |
| (5) 学ぶネットワーク作り /14 | |
| 第4章 生涯音楽学習における参画と協働 | 15 |
| 1. 地方行政における生涯学習の施策 /15 | |
| (1) 兵庫県の施策の現状 /15 | |
| 県立芸術文化センター /16 | |
| (2) 西宮市の施策の現状 /16 | |
| 西宮市教育委員会 /17 | |
| 西宮市中央公民館 /17 | |
| 2. 行政と参画協働のための事業企画書 /19 | |
| (1) 「にしのみや創造プロジェクト事業」 /19 | |
| (2) 「文化芸術による創造のまち支援事業」 /20 | |
| おわりに | 21 |

「クオリティー オブ ミュージックライフ」

社会の変動と生涯音楽学習

18A-0217 岩崎 久仁子

本レポートは、「西宮子ども音楽セミナー」終了時に行ったアンケートを主軸に、変容する社会における生涯学習の必要性を、審議会答申により導入期から21世紀に至る推移と、生涯学習社会形成のプロセスと音楽教育、音楽学習を照合し、現状の把握及び検証を行うものである。その上で行政の聞き取り調査により、地方行政の施策による協働の展望を探り、生涯音楽学習の企画事業案を提示する。

第1章では、副題の「社会の変動と生涯学習」を考察する上で、日本における生涯学習の変遷を審議会答申により生涯学習の理念と施策をたどり、生涯学習社会形成のプロセスと、音楽教育、音楽学習を照らし合わせることにより、生涯学習社会における生涯音楽学習を問い直した。

第2章では、「西宮子ども音楽セミナー」の実践と評価を、児童アンケートにより、学習プログラムの検証、満足度を分析し、保護者のアンケートでは、学習需要の把握を調べ、生涯学習ハンドブックの手法を用いて学習評価を行い、学習内容、学習意欲の喚起が行われたかを分析し、生涯学習音楽指導の内容を考察した。

第3章では、生涯学習音楽指導員研究会NW兵庫の活動を振り返り、生涯学習社会における音楽学習の、ミッション、ヴィジョン、ファシリテーター、ネットワークづくりが何であるかを考察した。

第4章では、兵庫県、西宮市における生涯学習の施策の現状を、兵庫県生活創造課、県立芸術文化センター、西宮市総合企画局まちづくり政策課生涯学習推進課、西宮市教育委員会、西宮市立中央公民館への聞き取り調査を行い、地方の課題を含めた内容で、行政と参画協働のための事業企画書を提示した。

本レポートのタイトルである「クオリティー オブ ミュージックライフ」とは生涯音楽学習を通して、社会の課題と向き合い、音楽を単なる演奏技術習得と考えるのではなく、生活の場での自発的な学習意欲を喚起し、共同体験学習により「仲間作り」「居場所作り」を確立し、生涯音楽学習の継続により地域コミュニティを形成することで、音楽を日常のものとして、音楽文化の創造、心豊かな社会生活を目指すものである。

【はじめに】

1995年の阪神淡路大震災直後、子育ても一段落し、社会とのかかわりを探る学習をしようと思い立った。

1996(平成8)年兵庫県の「男女共同参画アドバイザー養成講座」を2年間受講し、その後2002(平成14)年「ふるさとひょうご創生塾」に入塾、同時に「協働コーディネーター養成講座」「音楽療法講座」も受講した。今から思うと兵庫県も、新たな生涯学習のプログラムによる人材育成に着手しようとしていた時期だったのだろう。*注(1)

また音楽療法に興味を持ったきっかけで、「生涯学習音楽指導員養成講座」を東京まで受講しに行くこともためらわなかった。そして現在、「生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク兵庫」を立ち上げ、「西宮子ども音楽セミナー」の創設から運営へと歩を進め、『共に学ぶ』実践体験を行っている。

【研究の目的】

生涯学習とは、「学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動やレクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習」の意味で用いられるとともに、「生涯学習社会を目指そうという、考え方・理念自体を表している」(平成16年、文部科学省白書)という考え方もある。そして「生涯学習社会」とは、「人々が生涯いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その評価が適切に評価されるような社会である」(平成4年生涯学習審議会答申)という指摘もある。

以上のことをふまえて、変容する社会における生涯音楽学習の必要性を検討し(第1章)、生涯学習における音楽指導の実践的課題として、実体験を分析し(第2章)、生涯音楽学習における音楽文化創造の可能性を考察し(第3章)、生涯音楽学習における参画と協働を提示する(第4章)、ことが、本研究の目的である。

*注(1) 兵庫県は、「こころ豊かな兵庫」をめざす県民運動(平成3年)を起こし、新しい公の展開を契機にした参画と協働の施策を推進した。「男女共同参画アドバイザー養成講座」は、平成5年に始まり、現在までの累計修了者382人は、各地域で男女共同参画推進委員として活躍している。「音楽療法講座」は平成11年に始まり、現在まで累計修了者179人は、福祉施設医療施設等で活躍している。また「ふるさとひょうご創生塾」は平成8年に始まり、累計修了者390人は、様々な分野の地域活動グループ、NPO等のリーダー、審議会委員等として活躍している。(資料提供、兵庫県生活創造課)

第1章 変容する社会における生涯音楽学習の必要性

1. 審議会答申に見る、日本における生涯学習の変遷

教育は、社会的状況、経済的状況に対応する個人の生涯全般に関わる問題であり、今や雇用形態の変化、科学技術の進歩、高齢化社会の到来の中、生涯学習は今日的課題とされている。

1965年ユネスコの成人教育推進国際会議で、ポール・ラングランが提唱した生涯学習の考え方は、理念の段階から体制整備、計画の段階へ移行し今日に至っている。1971年「四六社会教育審議会答申」により社会教育の役割が強調され、1981年の「五六中央教育審議会答申」を経て、1985年より四次にわたる臨時教育審議会答申において、生涯学習社会の実現に向けての具体的な方策が示された。1990年に生涯学習振興法（略称）が施行されるに至り、社会の動向をふまえた学習機能の充実が、図られることになった。1996年「地域における学習機会の充実方策」が答申され、地域性、公共性が再構築されたことは、21世紀に向けての「社会における学び」から「社会を創る学び」への転換期であったと思われる。（表1-1）

表1-1 審議会答申に見る生涯学習の変遷

| [生涯教育の導入期] | |
|---------------|---|
| 1968(昭和 43)年 | 「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のありかたについて」 |
| 1971(昭和 46)年 | 「社会教育の立場に立って、学校教育を含めた教育の全体計画を立案することが必要。社会教育行政の施策の充実展開を図る」四六社会教育審議会答申 |
| 1981(昭和 56)年 | 「国民一人一人が充実した人生を送ることを目指し、生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき」五六中央教育審議会答申 |
| [生涯教育から生涯学習へ] | |
| 1984(昭和 59)年 | 「臨時教育審議会」発足 生涯学習体系への移行 |
| 1987(昭和 62)年 | 臨時教育審議会第四次答申(1985年より第一次答申始まる) |
| 1988(昭和 63)年 | 「学校教育、社会教育及び文化振興に関し、生涯学習に資するための施策を企画し調整すること」生涯学習局の設置、推進体制の整備が始まる。 |
| 1989(平成元)年 | 「21世紀をめざし、社会の変化に自ら対応出来る、心豊かな人間育成を図る」小、中、高等学校の学習指導要領改定。 |

| [生涯学習施策の普及期] | |
|--------------|---|
| 1990(平成 2)年 | 「生涯学習振興のための施策の推進体制の整備に関する法律」制定 |
| 1992(平成 4)年 | 「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」生涯学習審議会が設置される |
| 1996(平成 8)年 | 「地域における学習機会の充実方策について」 |
| 1997(平成 9)年 | 「生涯学習の成果を生かす方策について」 |
| 1998(平成 10)年 | 「社会の変化に対応した今後の社会教育行政のあり方について」 |
| 1999(平成 11)年 | 「生涯学習の成果を幅広く生かす」 「青少年の生きる力をはぐくむ地域社会の環境の充実方策について」 |
| [21世紀の生涯学習] | |
| 2000(平成 12)年 | 「家庭の教育力の充実等のための社会教育行政の体制整備について」「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」 |
| 2004(平成 16)年 | 「今後の生涯学習の振興方策について」 |
| 2005(平成 17)年 | 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」 |
| 2006(平成 18)年 | 「新しい時代の義務教育を創造する」 文部科学省と厚生労働省が「放課後子どもプラン」を公表 教育基本法が改正される。 |

生涯学習は、将来のための準備を目的とした学校教育も含めて、現在の自分の関心や課題と向き合い、他者との出会いを通じて、自分と社会との関わりを考え、社会に参画するための自主的・自発的な学習が中心となる。

21世紀に入り、国の施策が地方へと委譲される中、生涯学習に対する自治体の役割が重要となった。自治体が、個人の学習成果、キャリア開発、ボランティア活動をとおして、地域再生をどう生かすうかが問われている。また個人、団体のネットワーク作りをどう構築するかをも問われている。このことは、我々民間の組織側においても行政、関係機関とのパートナーシップをいかに構築していくかが、問われているのである。

2. 生涯学習社会形成のプロセスと音楽教育、音楽学習

生涯学習社会形成のプロセスを念頭において、我が国における音楽教育、音楽学習の変遷をたどる。(表 1 - 2 参照)

- ・第一ステージ(1990年以前) 個人の活動中心の個別学習
この段階、それ以前の段階では、音楽教育は学校教育が主たるものであり民間企業による音楽学習がこれを支えていたと思われる。ピアノ教室全盛時代。
- ・第二ステージ(1990年～)個別学習・相互学習・共同学習
学歴偏重社会の中で、受験知識や注入教育におちいり、マイホーム主義が増える中、学校では教育課程で主要教科とみなされない音楽教育も疎外されていく。音楽学習者も塾を優先するようになる。カラオケ教室の全盛時代。青少年による自主グループのバンド活動も盛んになる。
- ・第三ステージ(2000年～)個別学習・相互学習・共同学習を軸とした総合学習。
文部科学省の学習指導要領の改定もあり、音楽学習時間の減少と、音楽文化の見直しによる伝統音楽の継承が盛り込まれた。学習時間の減少により、音楽教育の内容は希薄になる一方、芸術家派遣事業のように、教員以外の音楽指導者が教育の場に姿を現すようになる。行政による、施設(音楽スタジオ)も設置されはじめる。

表 1-2 生涯学習社会形成のプロセス

| 学習 段階 | 第一ステージ | 第二ステージ | 第三ステージ |
|---------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 学習の目的や学習傾向の類型 | 自己充足型 自己満足型 | 自立志向型 社会関心型 | 自己実現型 社会参画型 |
| 課題学習対象や領域 | 行政や地域社会から提供された課題 | 生活課題や地域課題など | 生活課題や地域課題、社会全体の課題 |
| | 教育、教養、文化、趣味、娯楽、スポーツなど | | |
| 学習形態や方法 | 個人の活動中心の個別学習 | 個別学習、相互学習、共同学習(連携と協力) | 個別学習、相互学習、共同学習を軸にした総合学習(協働) |

* 天理大学教授 今西幸蔵 (兵庫県生涯学習支援者研修会資料より)

1994(平成6)年11月に施行された「音楽文化振興のための学習環境の整備に関する法律」は、その目的を「音楽文化が明るく豊かな国民生活の形成並びに、国際相互理解及び国際文化交流の促進に大きく資することにかんがみ、生涯学習の一環としての音楽学習に係る環境の整備に関する施策の基本等について定めることにより我が国の音楽文化の振興を図る」とある。(抜粋)

それにより生涯学習音楽指導員は、それまで個人的ニーズに支えられてきた音楽学習を、学習要求としては自覚していない人をも含め、自由に音楽に触れ、表現し、創造する学習機会を提供することを目的とした活動を、推進すること

が出来るようになった。今回 2005 年から実施された、「西宮子ども音楽セミナー」は生涯学習指導員の運営により、相互学習、共同学習を軸とした、総合学習(協働)の領域に属するケースである。こうした事業にみられる学習需要の把握、プログラムの研究、地域の実情に応じた企画については、次章で検証する。

第2章 「西宮子ども音楽セミナー」の実践と評価

1. 「西宮子ども音楽セミナー」の概要

「西宮子ども音楽セミナー」は、文部科学省が平成 16 年度より実施した地域子ども教室推進事業の一環として、音楽による子どもの居場所づくりを目的とし、「おんがくっ子塾」運営協議会によって、全国的に実施された委託事業である。いかなる形で音楽学習が可能であるかを模索していた私には、その事を生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク兵庫に提起し、平成 17 年度、18 年度に、西宮市の夙川西市民館において毎週日曜日の午前 10 時から 11 時半まで、わいわいアンサンブルの企画で、実施を実現することが出来た。(表 2 - 1 参照)

表 2 - 1 西宮子ども音楽セミナー概要

| | | | | |
|--|-----------------------------------|-----------------|----------|------------------|
| 文部科学省委託事業「地域子ども教室」推進事業 | | | | |
| 開催期 | 17 年度 | 年 40 回(5 月～3 月) | 18 年度 | 年 30 回(4 月～12 月) |
| 場所 | 西宮市夙川西市民館 | | | |
| 参加児童 | 延べ 1861 名 | 参加指導員 | 延べ 626 名 | |
| 後援 | 西宮市教育委員会 | | | 兵庫県 |
| 主催 | 「おんがくっ子塾」運営協議会・生涯学習音楽指導員研究会 NW 兵庫 | | | |
| ・セミナー開催にあたり、運営はネットワーク指導員全員で当たる、指導者と受講生の対等の関係をつくる、児童の目線でコミュニケーションを図ることとした。また企画の特色として、わいわいアンサンブルの中に、毎回邦楽・洋楽のコラボレーションした曲を盛り込むことにした。 | | | | |

2. 児童アンケートによる分析

「西宮子ども音楽セミナー」は、1 単位を 10 回とし、70 回実施した。今回のアンケートは 18 年度終了にあたり、(1) 学習プログラムの検証(2) 児童の感じ方を検証するために実施した。参加児童は、低学年が多い。当該地域は私学への中学受験の盛んな地区である。(市内小学生の 15% が私学受験)

アンケートの回答児童は、全員前回よりの継続の児童で、約 3 割は 2 年間継

続した児童である。学年は幼児(4名)、小1(3名)、小2(8名)、小3(10名)、小4(3名)、小5(1名)であった。

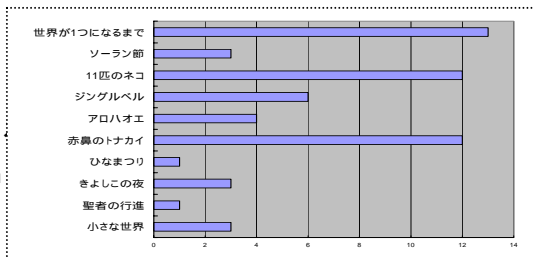
*アンケート用紙は資料として別紙添付。問)の番号はアンケート用紙を参照する。

(1) 学習プログラムの検証

問1)好きな曲は何でした？

- ・好きな曲の中で一番多かった曲は「世界が1つになるまで」で、セミナーのテーマソングとなり、2年間継続した。手話による表現、継続による達成感などで満足度が増したものと思われる。「赤鼻のトナカイ」も手話の曲である。(図2-1)

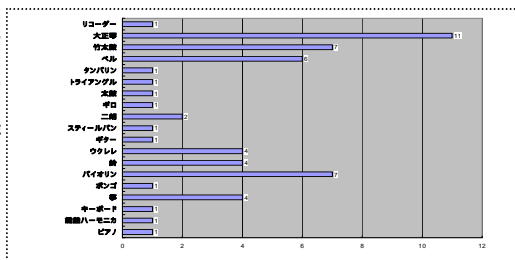
図2-1 好きな曲



問2)楽しかった楽器は？

- ・一番人気の楽器は大正琴であった。大正琴は「ソーラン節」で箏4台のメロディーの補強の為に用いた。大正琴の楽譜は数字譜で書かれている為、五線譜を理解できない児童にも容易に演奏することが出来たので興味を引き出すきっかけになったものと考えられる。又、楽器演奏の技術も専門の講師がそのつど指導した。(図2-2)

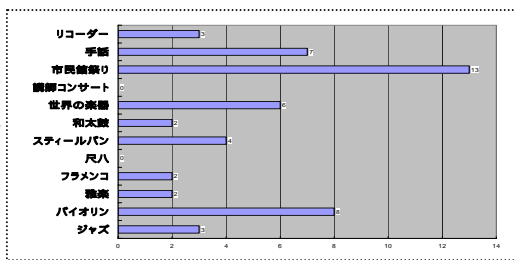
図2-2 楽しかった楽器



問5)楽しかったプログラムは？

- ・楽しかったプログラムは「市民館祭り」であった。セミナー開始直後で、練習過程での発表となったが、子ども達は共に創り出す喜び、他者から評価されることで、表現の楽しさを味わったようだ。(図2-3)

図2-3 楽しかったプログラム



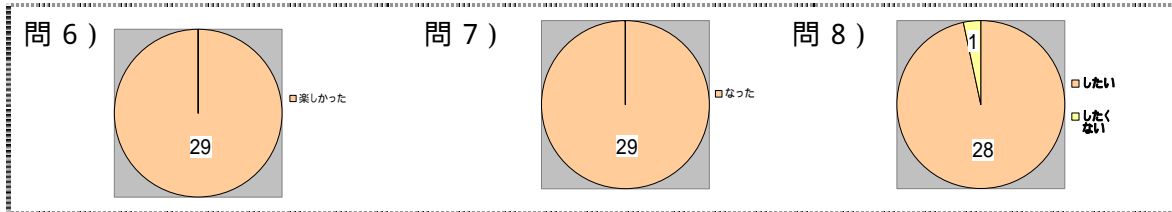
(2) 児童の感じ方

受講児童の満足度

ここでは、問6)わいわいアンサンブルに参加してどうでしたか？問7)音楽が、だいすきになりましたか？問8)また、きかひがあれば、参加したいですか？により受講児童の感じ方を検証する。

- ・参加して楽しかった(29名全員)。音楽がだいすきになった(29名全員)。またきかひがあれば参加したい(28名、参加したくない4歳児1名)。

図 2 - 4 受講児童の満足度



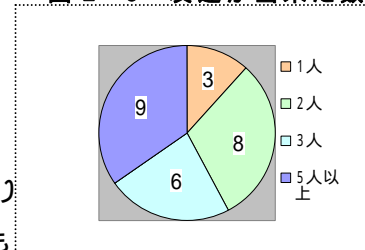
- ・約 97%の児童が満足と答えた。
- ・「一人でやるより、みんなでやると楽しい」1つの音楽を創り上げる作業の中での、児童の実感であり、このことが児童の社会性を促進する最初の一步だと思われる。音楽の持つ多様な教育力により、連帯意識や個人の尊重という感覚を体験し学習することが、児童の満足感を生み出し『ともに笑顔』を目標にしたセミナーの主旨を実現できた。(図 2 - 4)

仲間づくり、居場所づくりが実現できたか

問 3) お友だちになった、人の名前を書きましょう(何人でもいいよ)

- ・会話は日を増すごとに多くなり、児童同士の関係も深まり、異年齢間のコミュニケーションも円滑になった。覚えた友達の名前は、5人以上が最も多く仲間作りが進展した。
- ・ミュージカル「11ぴきのネコ」では台詞、歌、踊り効果音など、その分野で得意な子が指導する場面も見られ、共同学習の場でのそれぞれの個性が発揮された。(図 2 - 5)

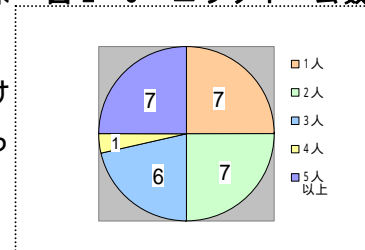
図 2 - 5 友達が出来た数



問 4) 先生のニックネームを書きましょう(何人でもいいよ)

- ・児童の様々な個性に対応できる指導者の数が、確保出来たこと(1回の参加指導者平均6名から10名)がよい結果を生み出したと思われる。朝の言葉がけの場面でも、児童の方から先に挨拶するようになった。(図 2 - 6)

図 2 - 6 ニックネーム数



- ・人はどういう学習や文化との出会い、どういった人とのつながりの中で、物事を見つめる力を養い、豊かな感性を育てることが出来るのだろうか。セミナーでは指導員も『共に学ぶ』という立場で臨んだ。児童には自分で考え、自分で答えることを約束した。その結果、児童と指導者の連帯感が生まれ、学習の場がお互いの居場所となり、楽しいセミナーになったとも思われる。

3. 保護者アンケートの分析

保護者を対象としたアンケート調査の結果から(1)性別・年齢(2)学習需要の把握(3)活動の課題を検証する。保護者アンケートは、1単位(10回)修了ごとに毎回行ったが、今回は、セミナー全体の状況の把握として分析する。

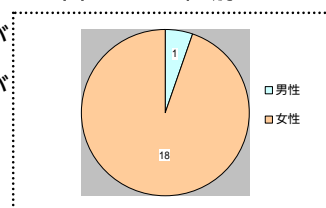
*アンケート用紙は別紙資料として添付。

(1) 回答者の性別・年齢

問1) 保護者の性別(回答者)

・各単位の修了コンサートでは、父母による参加が多くみられたが、アンケートの回答者は、男性が1名でほとんど女性であった。(図2-7)

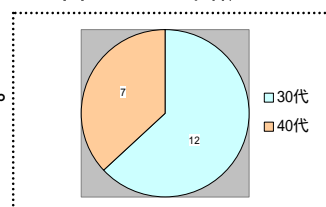
図2-7 性別



問2) 保護者の年齢

・30代が約6割、40代が約4割であった。
1970年～1980年に学校教育を受けた人達である。(図2-8)

図2-8 年齢

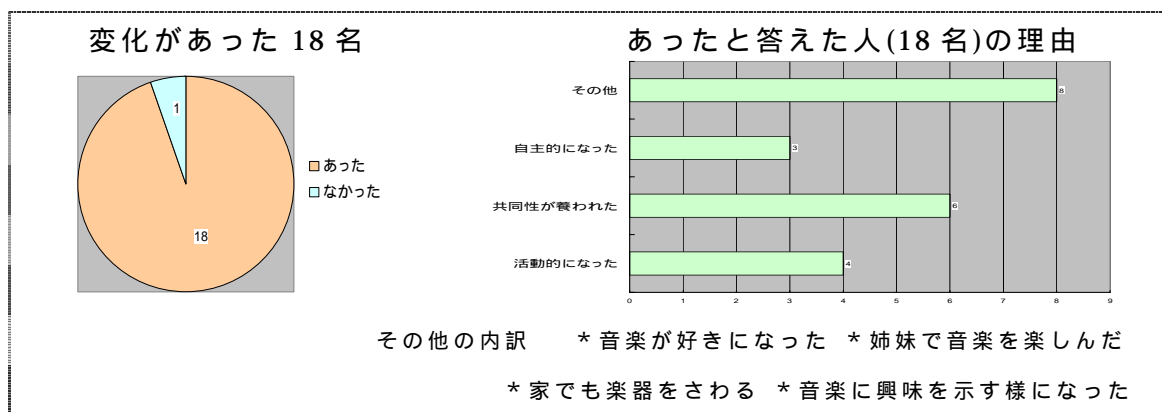


(2) 学習需要の把握

問3) セミナーに参加して子どもに変化はありましたか。

・音楽セミナーの開始当初は、コミュニケーションの苦手な児童が多く見られた。指導者から離れない児童、押し黙った児童など。指導者数も多く全員への言葉かけを励行した。セミナーが進行するにつれて、指導者との会話、児童同士の会話も増した。児童は各楽器の選択、パートの選択、諸雑務(受付・後かたづけ)にも積極的に参加する姿が見られるようになった。

図2-9 セミナーの参加による子どもの変化



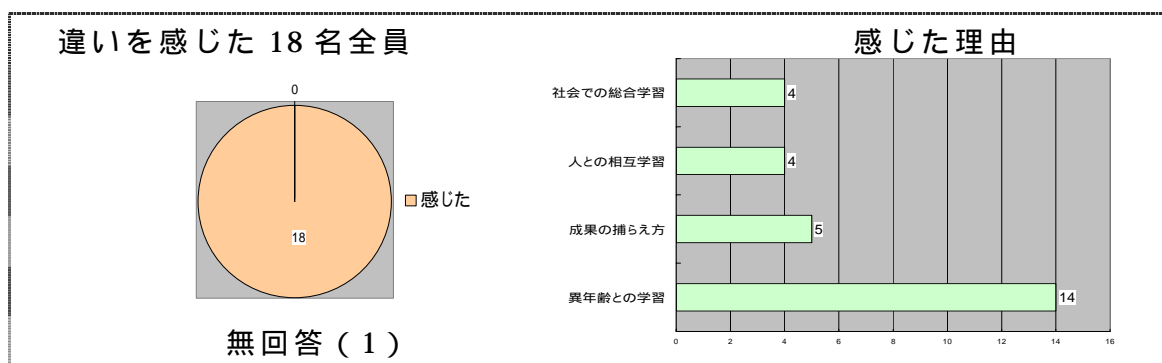
・何よりも、音楽を通して共同で学習する場が確立したことが重要で、相互に認め合うことが、自主的、活動的、共同性を養うということにつながり、各

児童の大きな自信につながったと思われる。(図 2 - 9)

問 4) 学校教育とセミナーとの違いを感じましたか。

- ・異年齢による学習活動への評価が高い。セミナー開始当初は、児童の音楽能力の差、年齢差による理解力の違いに指導者はためらった。毎回の反省をふまえ、新たな企画・編曲の工夫などによって、共に学ぶ学習の場が形成され最後まで継続する児童がほとんどであった。(図 2 - 10)

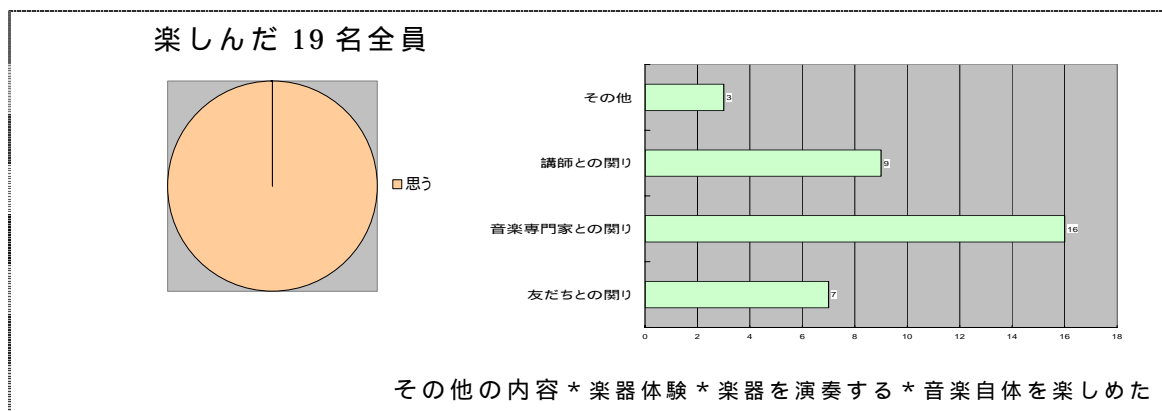
図 2 - 10 学校教育とセミナーの違い



問 5) 子どもがセミナーを楽しんだと思われますか。

- ・全幅の信頼をこめ、児童からも信頼される関係を作ることが大切だということが結論である。当初から指導者と受講者がお互いを、ニックネームで呼び合い、おしつけの学習ではなく、同じ立場で学ぶ環境を心がけた。
- ・音楽の専門家とは、連携団体に楽器体験を行った指導者を含める。
- ・児童への約束事は 2 つ、「楽器を大切にする」「人の話を聞く」こととした。その上で、指導者は「児童の人格を認める」「児童の個性を尊重する」こととした。指導者の児童に対する接触の仕方により、児童が楽しめた要素となったと考えられる。(図 2 - 11)

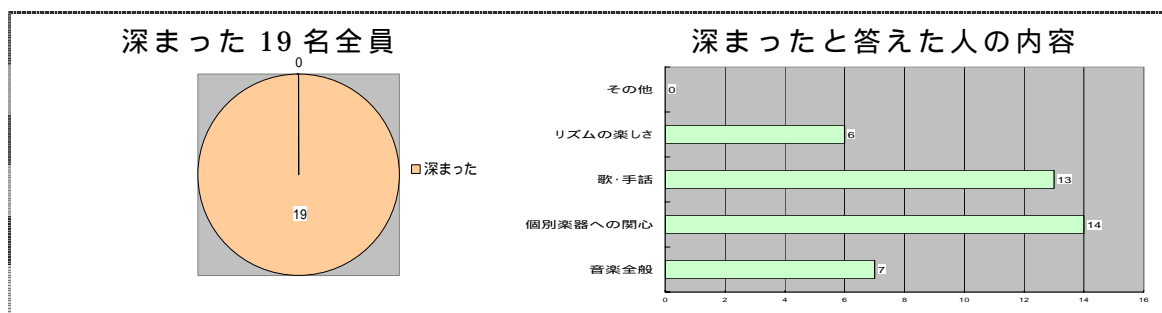
図 2 - 11 セミナーを楽しんだ子ども



問 6) セミナーで音楽への興味が深まりましたか。

- ・個別楽器への関心が半数の回答を得ている。セミナーでは、25種類の楽器を使用した。各単位で学校では学習しないバイオリン、箏、ギター、などを専門分野とする指導員により、継続して学習するプログラムを組んだ。このことで、児童の楽器の習得度が増し、保護者の評価に結びついたと思われる。
- ・学校教育で使用しているリコーダーや鍵盤ハーモニカは、楽器を自宅に持ち帰る期間を利用し、自宅学習が出来るようにアンサンブル曲を選曲した。
- ・歌、手話は「世界が1つになるまで」「ドレミのうた」を指導し、楽しんだ。最終回の「赤鼻のトナカイ」は、手話の専門家から、手話の意味や、相手に伝える時のマナーを教わり、一層の関心が深まったと思われる。(図 2 - 12)

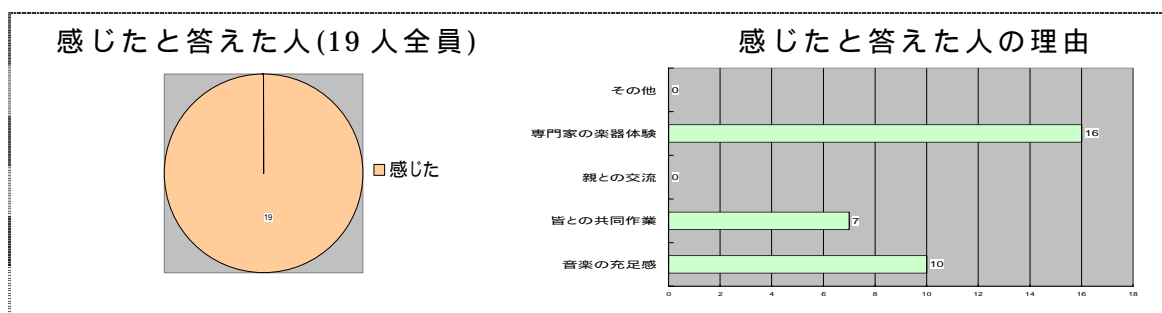
図 2 - 12 セミナーでの音楽興味の深まり



問 7) 今回のセミナーで音楽のよさを感じられましたか。

- ・専門家による音楽体験学習については、他団体とも連携して実施した。(雅楽和太鼓・フラメンコ・バレエ・尺八・ブラス・手話等)。専門家との関りは、児童に未知の世界への興味を持たせるものであり、音楽への充足感はその豊かな心を育む可能性を示すものと考えられる。(図 2 - 13)

図 2 - 13 セミナーでの音楽に対する好感



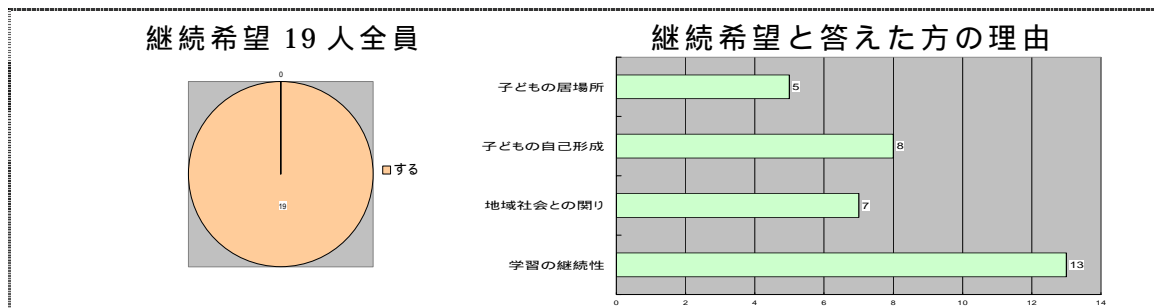
(3) セミナーの展望と課題

問 8) 可能であれば、セミナーの継続を希望されますか。

- ・希望理由としては、子どもの居場所、子どもの自己形成、地域との関りが、

ほぼ同数で分散し、学習の継続が一番となっている。保護者の継続して欲しいという熱意が伺える。(図 2 - 14)

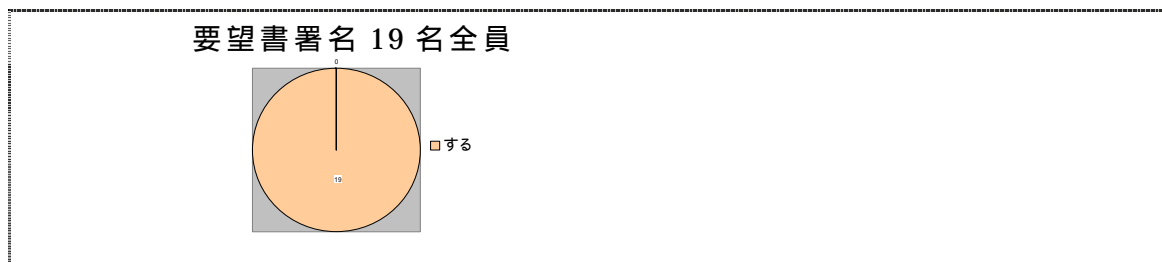
図 2 - 14 セミナー継続への希望



問 9) 行政への継続希望の要望書に署名されますか。

- ・文部科学省では、18年度で子どもの居場所づくりプランは終了と決定されており、19年度は放課後子どもプランへ移行された。
- ・セミナー終了時、保護者・児童・関係団体・講師により計 89 名の署名が集まった。(図 2 - 15)

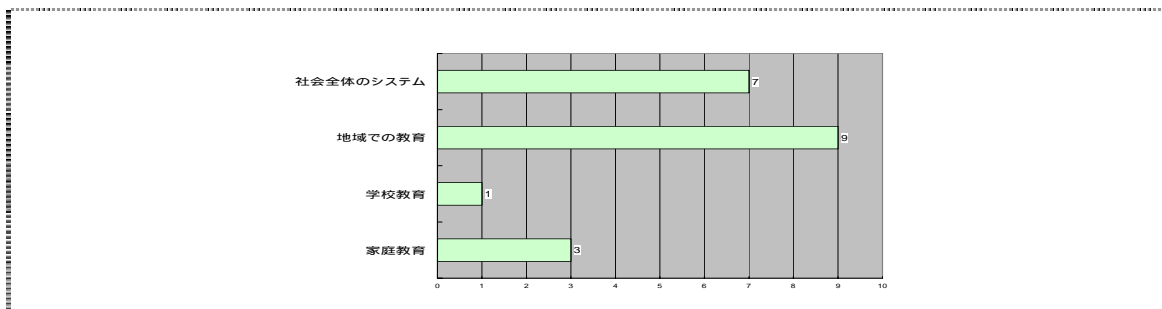
図 2 - 15 セミナー継続を希望する行政への要望書



問 10) 現在の教育で必要なものは何だと思われますか(1つ選択)

- ・保護者を対象とした今回のアンケートでは「地域での教育」「社会全体のシステム」が必要と回答している、学校教育・家庭教育だけでは為し得なかった期待が社会を作り出す、生涯学習に課せられていると思われる。(図 2 - 16)

図 2 - 16 現在の教育で必要なもの

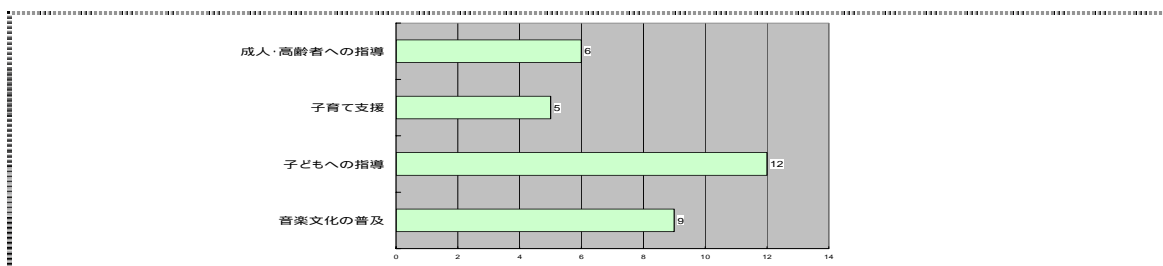


- ・保護者を対象とした今回のアンケートでは「地域での教育」「社会全体のシス

テム」が必要と回答している、これは生涯学習の課題でもある。(図2-16)

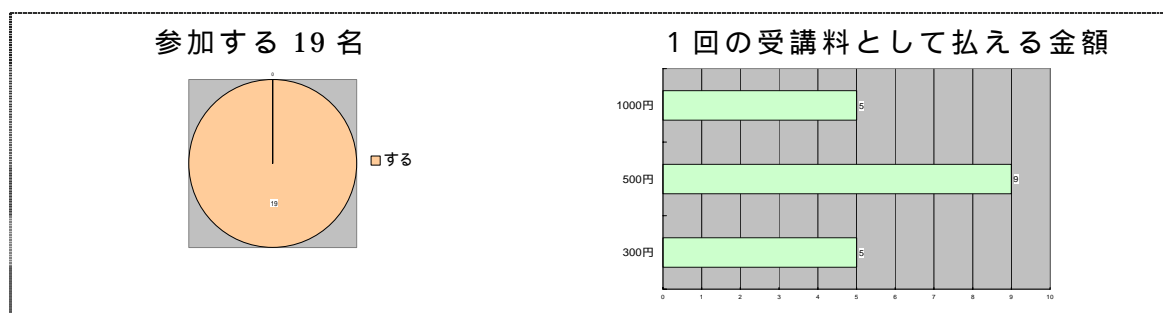
問11) 今後、生涯学習として、どの分野の音楽指導が有効だと思われますか。
・生涯音楽学習の今後に期待する分野は、「子どもへの指導」が多数だった。次に「音楽文化の普及」が回答され「成人・高齢者への指導」「子育て支援」が続いており多岐に渡っている。(図2-17)

図2-17 生涯音楽学習で必要と思われる分野



問12) 今後のセミナーが有料であっても参加されますか。
・保護者の回答は有料でも全員が参加すると答えている。1回の受講料は、500円が9名で最も多く、1000円、300円が各5名となっている。(図2-18)

図2-18 セミナーの費用



* 保護者感想文は別紙資料として添付。

4. 「西宮子ども音楽セミナー」の学習評価と分析

山本恒夫 編[生涯学習ハンドブック]の手法を参考に

(1) 学習内容

毎回の反省会で、居場所作りとセミナーのあり方を確認、次回へつなげた。

学習方法

音楽を創り上げるなかで、集団性、共同性を重視するプログラムとした。

物理的諸条件

10回のセミナーを1単位と考え、企画から最終までプログラムに統一性をもたせた。音楽技術の習得よりも音楽の楽しみ方、学び方に重点を置いた。

運営上の要素

指導者は、ネットワーク会員の全員参加を原則とし、会員の自主的参加者
図った。また児童と指導者は同じ立場での、学びの共有を図った。

(2)学習意欲の喚起

学習者の必要とする事項が入れられているか
パート終了時毎回アンケートを取った。

新しい学習への関心が呼び起こされているか
新しい楽器を次々に体験した。

他の児童の発想法を知り、新しい学習への関心が生まれたか
パートごとにテーマを決め企画を立てた。最終のミュージカル「11匹のネ
コ」では、児童も企画に参加し、役割の大切さ、歌、踊り、せりふの相互
の作業による完成度の充実を図り、お互いが個性の大切さを知り、作品を
達成する喜びに至った。

生活上の課題の解決に役立ったか
自主性、協調性が養われ、仲間意識を育てることが出来た。

年齢、環境の異なった人の楽しさを味わったか
異年齢の学習の楽しさを理解した。

【考察】

いじめ問題の顕在化は、物質優先社会の所産である。子どもたちの心の歪み
は、大人たちがその歪みを是正する社会を考えなくてはならない。教育問題に
ついては、行政、市民NPOとそれぞれが課題として挙げている。平成18年
度の教育基本法は、新たに「公共の精神」の尊重「豊かな人間性と創造性」「伝
統の継承」などが規定されている。このことは、取りも直さず学校教育・家庭
教育と連携した、生涯学習に教育への期待が寄せられているという事である。

生涯学習の一環として行った「西宮子ども音楽セミナー」は児童・保護者共
満足度97%と好評だった。そして、私たち指導員にも、達成感をもたらした。

児童には、異年齢による学習形態により社会性を育み、市民館まつりの参加
により、社会参加の喜びをもたらした。保護者アンケートによる「地域での教
育」「社会全体の教育システム」の回答は、セミナーへの理解の裏づけである。
問8)や問9)の継続の希望は、地域での教育力をいかに組み合わせて、生涯音楽
学習の場を確保するかにかかっているのではないだろうか。NPO活動も視野に
入れて、活動を広げる必要を感じた。

私たち指導者にとっては、共に学ぶことにより、生涯学習の真の意味を考え
る場でもあった。形態や方法に臆せず、多様な創造性をもって望めたのも、子

ども達の笑顔の後押しがあったからである。

学習の多様な場と方法を、学習者(児童)のレベルでプログラム化し、関係づけることを、「西宮子ども音楽セミナー」を実践する中から学んだ。

第3章 生涯学習社会における生涯音楽学習

1. 生涯学習音楽指導の課題

第2章の「西宮子ども音楽セミナー」は生涯学習音楽指導員研究会NW兵庫として初めて取り組んだ事業である。初めて顔を合わせた指導員同士が、生涯学習音楽指導とは何かを認識しないまま、エネルギーを全開して突き進んだ感じがする。振り返ってみれば、悩みを語り、他者とのトラブルに耳を傾け、知恵を出し合い、方法を考え出していくことで全員が何かを学び取ることが出来た。2年間のセミナーが終了し、生涯学習音楽指導が何であるか、少し先の見えた段階に入った。本章は「生涯学習音楽指導員とは」、「生涯学習音楽指導とは」「ネットワークとは」の問いを、生涯学習音楽指導の課題とする。

「西宮子ども音楽セミナー」の分析からみると、社会の価値観は、物から質へ、画一から多様へ、経済重視から生活文化へと移行していると思われる。さらに保護者のアンケートからも、参加、連帯、能力の発揮、個性の尊重、と多様な価値観を読み取ることが出来る。(別紙添付・保護者感想文参照)そのような多様な価値観を持つ生涯学習社会の中で、ネットワーク作りのさらなるエンパワーメントに向けて、参画協働型の学習活動としての生涯音楽学習と指導員の役割を考察する。

(1) 使命(ミッション)の共有

生涯音楽学習における使命の共有とは、2001年制定された「芸術文化振興法」にのっとった、生涯学習音楽指導、音楽文化の創造であり、音楽による豊かな心を共有できる社会の実現であると思われる。

(2) ヴィジョンの創造

ヴィジョンとは「音楽を学び楽しむ場」をいかに提供出来るかである。何が必要で、どこへ向かうのかを、頭で分析するのではなく、体験の中から感じ取る自主性である。生涯音楽学習のヴィジョンは、ネットワークが生み出す多様な知力により、創造していかなければならない。

(3) 参画協働の主体としてのネットワーク

参画とは、意思決定の過程を共有するプロセスのことであり、一人一人が自由であり、なおかつ行動に責任を持ち、自己実現するプロセスである。その

為には音楽指導員のファシリテーターとしての役割が欠かせない。

(4) ファシリテーターとしての役割

ファシリテーターを直訳すると「援助者・促進者」という意味になる。リーダーは統率を大切にするが、ファシリテーターは公正を重んじる。生涯音楽学習におけるファシリテーターの役割は、専門的知識を伝えるだけのものでも、自分の音楽性を誇示するものでもない。体験学習や音楽学習において、参加者が対等な立場で意見を出し合い、より民主的に学習が進んでいくよう、様々な工夫を行い、進行していく役割である。

(5) 学ぶネットワーク作り

ネットワークは自立と依存の関係である。「小さな主張」「小さな依存」によって、支え合う共同体としての「響きあう関係」が成立するのではないだろうか。YESの中のNOをどう汲み取るか、NOの中のYESをどうすくい上げるかが、共感と自己主張を内包する水平なネットワークの構築となる。

生涯音楽学習のネットワークが、日々、エンパワーするためには、進捗状況の把握、的確な援助、ピンチをチャンスに変える持続的な活動が必要だ。「ともに学ぶ」ことを共有することにより共感と連帯感が生まれ、そのことによりネットワークがさらにエンパワーすると思われる

第4章 生涯音楽学習における参画と協働

1. 地方行政における生涯学習の施策

参画と協働の視点で、兵庫県・西宮市の施策を聞き取り調査し、報告する。

聞き取り調査については、兵庫県県民政策部県民文化局生活創造課生涯学習研究室は2007年3月6日、兵庫県立芸術文化センター広報課は2007年2月10日、西宮市総合企画局まちづくり部文化課生涯学習推進課は2007年3月26日、西宮市教育委員会は「子ども音楽セミナー」継続の要望書提出の際2007年3月5日、西宮市立中央公民館は2007年3月5日に実施した。

(1) 兵庫県の施策の現状

兵庫県はいち早く昭和54年度に、生活課題・地域課題に関する取り組みと一体となった県民の学習活動の総合的かつ効果的な支援をめざすため、青少年教育、芸術文化、高齢者教育、婦人教育等、生涯学習に係る事務を教育委員会から知事部局に委任された。

兵庫県第5期生涯学習の提言より(平成15年7月)

「包括的な生涯学習システムの必要性」

- 県民と学習資源をつなぎ個々の団体の取り組みを支援する仕組み -

めざすべき生涯学習システムの特徴

本県では、平成 15 年 4 月に「県民の参画と協働の推進に関する条例」が施行され、多様な主体による連携・協働やボランティア活動の裾野の拡大が推進されようとしており、これらを支える生涯学習の期待も高まっている。また都市部を中心に施設や人材など豊富な学習資源が存在しており、こうした兵庫県の特徴を生かした成熟時代にふさわしいシステムづくりをめざしていく。このシステムは、生涯学習の対象領域の拡大と社会参加の促進 関係機関のネットワーク化と共同事業の実施 大学と他の機関の連携強化 その人ならではの活躍の支援 地域課題解決に向けた「学びあう協働」の促進の 5 つの特色を持つ。

また地域課題解決に向けた「学びあう協働」の促進とは、

学習活動を通じて、成熟社会における市民として、創造的な企画力、実践力を獲得し、環境、子育て、コミュニティー、高齢者ケアといった地域のさまざまな活動に取り組めるよう、各団体とのネットワークを深めなければならない。

とある。県庁の生涯学習研究室への聞き取り調査によると、18 年度から「県民交流広場事業」が本格化し、「参画と協働」によるコミュニティーづくりが、ソフト面の充実として大きくとりあげられていた。この場合は地域組織(自治会・婦人会・PTA・老人会)との連携も必要で、生涯学習音楽指導員の地域づくりへの積極的関りが課題となる。また生涯学習音楽指導は県民局の所管の中で展開されることになり、西宮市を中心とする私達の活動においては、今後、阪神南県民局との協働の必要を感じた。

県立芸術文化センター

2005 年 10 月、県立芸術文化センターがオープンした。今年 1 月、16 ヶ月で 50 万人を集客した。(3 月 1 日朝日新聞・佐渡裕対談) 私も足しげくコンサートに通う一人である。集客の手法は、「ワンコインコンサート」500 円の低価格コンサート、「プロムナードコンサート」は土日を利用して働く人達へのコンサート、芸術文化センター交響楽団・PAC オーケストラの定期演奏会である。1000 円からの低料金で予約が困難な状況だ。これらの事業は若手芸術家の育成にもつながる。出演演奏家により、内容にも工夫を凝らしている。手軽に、利用できる企画の工夫があれば、音楽は市民の身近なものになるという点で参考になる。

(2)西宮市の施策の現状

西宮市の計画体系

「夢をはぐくむ生涯学習のまちづくり」

生涯学習の基礎作り 情報提供体制の整備 学習の場の整備充実

学習機会の充実 成果を生かす方策 推進体制

西宮市は、18年度より市長部局の総合企画局文化まちづくり部に、生涯学習推進グループが置かれている。自治体全体として、生涯学習、文化にどう取り組むかという連携が始まったばかりである。生涯学習課推進グループでは、高齢者の「宮水学園」、子ども対象の「宮水ジュニア」、大学連携講座「インターカレッジ西宮」などが主な事業で、学習機会や場の提供を行っている。

文化振興グループでは、18年度「西宮文化振興ビジョン」が策定された。「音楽と出会うまち西宮」事業では、市民との連携・協働として懇話会も設立された。まちかどコンサート、ギャラリーコンサート、西宮虹舞台（応募企画）などの事業がある。西宮虹舞台へは昨年応募を試みたが「西宮子ども音楽セミナー」が開催中という事で、却下された。だが市民が実際に音楽に参加する体験型の事業が必要と感じている。

西宮市教育委員会

国の「放課後子どもプラン」への施策の移行をふまえて、「西宮子ども音楽セミナー」事業継続の要望書を提出したが、来年度の「放課後子どもプラン」に関しても実施未定との回答であった。生涯学習課は18年度より総合企画局に移行したが、家庭教育の支援として、社会教育・文化財グループの中の家庭教育振興市民会議において、家庭教育が本来果たす役割を見直し、地域、学校、行政が連携し、子育てを支える環境づくりを行っている。

西宮市中央公民館

西宮市は公民館活動の盛んな地域である。各公民館に推進委員を設置、自主講座を企画している。しかし組織自体が、従来の地縁に基づいているため、プログラムのマンネリ化で学習者の数は減少している。

中央公民館は、新たに18年度から「市民企画講座」を開催した。本年度も「にしのみや創造プロジェクト事業」として、人権 福祉 家族 子育て 青少年 ボランティア育成 その他 の内容を含むものを公募している。生涯音楽学習として参加するならば、これらの内容に複合する企画が必要だ。

ところで生涯音楽学習プログラムとして、市民が実際に音楽に参加する体験型の事業が、ほとんど行われていない。直に音楽に触れる体験が必要とおもわれる。生涯学習音楽指導員も、音楽をツールに、地域に向けて様々な企画を投げかけ、実践し、まちづくりの視点をふくめ他団体と連携することが欠かせない時代になってくるように思われる。

[聞き取り調査を終えて]

西宮市、兵庫県の聞き取り調査における各課の対応は、協力的であり好意的であった。行政は、地域社会における生活の場でのコミュニティー作りを模索し、協働による豊かな社会を目指していると思われる。地域コミュニティーの活性化を図るSNS(ソーシャル ネットワーキング サービス)のメンバーにもNW兵庫として登録した。

2007年6月1日、教育再生審議会の第2次報告では、「心と体 - 調和の取れた人間形成を目指す」とある。提言2では、「様々な体験活動を通じ、子供たちの社会性、感性を養い、視野を広げる」とあり、また提言4では「地域ぐるみの教育再生に向けた拠点をつくる」とあり、「放課後子供プラン」がこれにあたる)、提言5では「社会総がかりでの教育再生のためのネットワークをつくる」とある。(財)音楽文化創造による、全国各ネットワークの「地域子ども教室」業績はこれらの条件を満たしたものとする。

しかし、行政の施策には期限がある。事業継続の工夫はネットワークの課題である。また社会の変化は急速であり、既成の制度や施策の枠外においても、そのニーズを生み出すものと思われる。だからこそ、行政と協働する新たな生涯学習音楽指導の発想が必要であり、生涯音楽学習を図る上でも社会における様々な課題を持つネットワークとの連携が提唱されるのであろう。そして、生涯学習音楽指導員は、新たな協働の関係をフェイスとフェイスで向き合い、地域社会の課題をさぐりながら、生涯学習音楽指導の実践により構築していかなければならないのであろう。

2. 行政と参画協働のための事業企画書

ここでは、西宮市、兵庫県における聞き取り調査にもとづき、子育て支援を課題としたミュージックセラピーの親子講座の企画と、「音楽と出会うまち」の西宮市文化振興ビジョンうけて、生涯音楽学習として、市民、音楽家、音楽団体、NPOの連携による体験型ワークショップ、コンサートの企画を提示する。

(1) 「にしのみや創造プロジェクト事業」市民企画講座

現代的課題をテーマとした中央公民館での企画講座を提案する。

(2) 「文化芸術による創造のまち支援事業」文化庁

参加・体験型の音楽講座の実施を提案する。

そのために西宮子ども音楽セミナーを核として、これと連携する団体及びまだ行政に関わっていない、他の音楽団体とのネットワーク化をめざし、西宮市音楽団体協議会を設立する。そのため文化庁の「地域振興事業」についての企画を提案する。

[企画書]

(1) 「にしのみや創造プロジェクト事業」市民企画講座

背景

西宮市は、震災後も新たに居住人口が増加し、新生児も多く、保育所の数も不足している。また、サラリーマンの転勤者も多く、核家族により子育てに悩んでいる父母も多い。そこで子育て支援の親子ミュージックセラピーを企画する。

タイトル 『おやゆび こゆび この指とまれ!!』

企画意図

- (a) 音楽により親子間のコミュニケーションとスキンシップの充実を図る。
- (b) 音楽をとおして幼児の身体、心身の成長を促進する。
- (c) 音楽をとおして父母が知り合い、子育ての仲間づくりを推進する。

対象

- (a) 0歳～1歳の乳幼児を持つ親と子
- (b) 2歳～3歳の幼児を持つ親と子 *成長段階により2グループとする。

内容 (a) リトミック (b) 昔あそび (c) ミュージックケア体操
(d) 音でつづる絵本

時期 9月・10月・11月(月2回×3)計6回

場所 西宮中央公民館

案内・広報 市政(ニユト)誌掲載・公民館設置

* 今後の情報提供等については、インターネット市民塾として継続することを視野に入れる

(2)「文化芸術による創造のまち支援事業」文化庁

[企画書]

背景

西宮市では、平成 18 年度「西宮文化振興ビジョン」が策定され、「音楽と出会うまち西宮」事業を行っている。しかし現在行われている、「まちかどコンサート」「ギャラリーコンサート」などは、従来からの音楽団体(西宮合唱団・アーティスト教会等)による事業に過ぎない。生涯音楽学習の機会や裾野を広げるためには、地域音楽文化振興への取り組みとして、新たな音楽団体や組織との連携協力が必要と考える。新たな音楽関係者間のネットワークを構築することが重要である。

本事業は(a)シンポジウム～(b)ワークショップ～(c)コンサートによる3部構成の連続事業とし、「音楽のあるまち」の文化創造と新たな音楽協議会設立の為(西宮音楽ホーム)の事業プランを提示する。

タイトル

『クオリティ オブ ミュージックライフ』～連帯から創造へ～

企画意図

(a)新しく音楽を創造するという想いを持つ、音楽家・音楽団体との連帯を図る。西宮音楽ホーム[仮称]

(b)市民に向けて音楽体験ワークショップを開催する

(c)「音楽にであうまち」にふさわしい、心ふれあうコンサートを開く
対象

(a)シンポジウム(兵庫県在住・在勤の音楽に興味・関心のある市民)

(b)ワークショップ(各コースにより幼児～高齢者までの市民全般)

(c)音楽のあるまちコンサート(シンポジウム・ワークショップ参加者)

事業形態・内容

(a)シンポジウム(プレラホール)

「ふれあい・つどい・みゅーじっく～西宮音楽ホーム設立にむけて～」

音楽団体のネットワークづくりを目的とし、西宮セミナーの連携団体や、新たに NPO 音楽団体や個人音楽家へ呼びかけ、音楽コミュニティーをつくりあげる。

(b)ワークショップ(市民による参加型音楽体験)

シンポジウムの内容を盛り込み、生涯学習の視点に立った体験学習。すべての年齢に対して、年齢に応じた音楽ワークショップを開催する。

内容：乳幼児(子育てセラピー)・児童(わいわいアンサンブル)・中学生(よさこソーラン)・高校生(和太鼓体験)・大学連携(ミュージカル)・成人(ブラ

スアンサンプル・邦楽）・高齢者(ミュージックケア)のコース。

* 内容は例として提示。

(c)「音楽にであうまち」- 国際音楽の日コンサート - 開催(兵庫県立芸術文化ホール)
コンサートの参加者は、シンポジュームの参加者、ワークショップ受講生、
兵庫県・西宮市在住在勤の音楽家で構成する。

時期

(a)シンポジューム 2008年5月～7月(準備～開催)

(b)ミュージック・ワークショップ 8月・9月

(c)「音楽にであうまち」- 国際音楽の日コンサート - 10月

場所

(a)プレラホール(b)公民館並びに公的施設(c)兵庫県立芸術文化センター

案内・広報

- ・兵庫県広報紙・西宮市広報誌・新聞各社・インターネット
- ・公共の施設に配布

【おわりに】

「私たちが行ったことは、こういう事だった」本レポートを書くことにより、整理しあらためて認識した。生涯学習音楽指導員として「気づき」「種まき」「根づき」を実践の中で体験した。本レポートはその実践体験をもとに、生涯学習との相互性をたどることで、結果、指導員としての自らの学習を方向づけるものであった。

2年間実践活動をする中でも、行政との聞き取り調査の中でも、そしてレポート作成のため情報収集をする中でも「自発的な学習」「学習による共通体験」が生涯学習の必要条件と感じた。個人が分断されていく格差社会の中で、その歯止めとしての「居場所づくり」「仲間づくり」として、生涯音楽学習は充分条件である。それは、幼児、青少年、社会人、高齢者どの年代においても、可能なことである。

今後の課題は、生涯音楽学習が、各地域のなかで如何にプロフィット(事業性)を高められるかである。それには、やりたいこと、求められていること、やれることを、生涯学習音楽指導の中で、社会と照らし合わせて提示し、行政との協働によって実践することであろうと思われる。

レポート作成中の2007年2月28日、朝日新聞の朝日広告賞のコピーが目にとまった。「心がだんだんまるくなる」「一瞬も一生も美しく」「文学の言葉でなら、世界と深くはなせる」。これらの言葉はすべて音楽の世界に置き換えても可

能なことだ。音楽は、人を豊かにする。社会の仕組みが複雑になっても、人の心はいたってシンプルだ。音楽学習を日常生活の次元に手繰り寄せ、音楽を努力しないと受け入れることが出来ないと考えるのではなく、日常生活の質を向上させる、必須条件とみなすことも出来るのではないだろうか。音楽という「魂の薬」を処方箋に、学びの案内人は必要だと考える。生涯音楽学習が人とのつながりを培い、音楽学習がそれぞれの人の持つ状況を憩わせ、音楽が明日へのエネルギーを育む、生涯音楽学習が心豊かな生涯学習社会の音楽文化の創造への一助となることを願ってやまない。

生涯音楽学習も音楽文化の創造も、音と響きあう生活「クオリティー オブ ミュージックライフ」の中にあると思われる。

【参考文献】

- ・ 高萩保治・中嶋恒雄編『音楽の生涯学習 - 課題と実際』玉川大学出版、2000年。
- ・ 浅井経子編『生涯学習概論』理想者、2002年。
- ・ 今西幸蔵『21世紀の宝・生涯学習 - 市民社会へのパスポート - 』澁標、2001年。
- ・ 吉川弘編『生涯学習論』文教書院、1997年。
- ・ 辻功・新井郁男編『生涯学習援助の企画と経営』第一法規、1989年。
- ・ 山本恒夫編『生涯学習ハンドブック』第一法規、1989年。
- ・ 川野辺敏・山本慶裕編『生涯学習論』福村出版、1999年。
- ・ 白石克己編『生涯学習論 自立と共生』実務教育出版、1997年。
- ・ 上杉孝實・前平泰志編『生涯学習と計画』松籟社、1999年。
- ・ 小宮山博仁・立田慶裕編『人生を変える生涯学習の力』新評論、2004年。
- ・ 中島明勲・星永俊編著『21世紀の社会教育』ミネルヴァ書房、1992年。
- ・ 丸林美千代著『生涯音楽学習入門』音楽之友社 1999年。
- ・ 佐藤一子編『生涯学習がつくる公共空間』柏書房、2003年。
- ・ 赤地学・金谷年展・中雄政幸編『心に火をつける人、消す人』TBS ブリタニカ、2000年。

- ・ 「音楽文化の創造」cmc40号 - 音楽文化創造の理念と事業 - 、2006年4月。
- ・ 「西宮市文化振興ビジョン」 - 文化 美しい風 西宮 - 、2006年3月。
- ・ 「人権教育のための国連10年」西宮市行動計画中間年報告書、2005年3月。
- ・ 「兵庫県における包括的な生涯学習システム」- 関係機関の協働で実現するあらゆる県民のための生涯学習基盤整備 - 第5期兵庫県生涯学習審議会提言、2003年7月。
- ・ 「生涯学習支援ハンドブック」 - 基礎編 - 兵庫県立神戸生活創造センター、2006年3月。
- ・ 「県民交流広場ハンドブック」兵庫県、2006年4月
- ・ 「社会教育」 安全安心防犯を考える 子どもの居場所のコーディネート
全日本社会教育連合会、2006年2月。
- ・ 「社会教育」最近の政策動向をさぐる全日本社会教育連合会、2006年9月
- ・ 「社会教育」教育基本法改正、全日本社会教育連合会、2007年4月
- ・ [http:// www.mext.go.jp](http://www.mext.go.jp) 文部科学省ホームページ、2007年1月検索
- ・ <http://www.nishi.or.jp> 西宮市役所ホームページ、2007年2月検索
- ・ <http://www.web.pref.hyogo.jp> 兵庫県庁ホームページ、2007年2月検索
- ・ <http://www.ejiten.jarea.or.jp> 生涯学習研究e辞典、2006年9月検索
- ・ <http://www.kantei.go.jp/singi/kyouiku/houkoku> 教育再生会議第二次報告、2007年8月検索

添付資料

- 1 . 児童アンケート用紙
- 2 . 保護者アンケート用紙
- 3 . 「西宮子ども音楽セミナー」修了にあたっての感想
- 4 . 生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク兵庫へのアドバイス・ご意見
- 5 . 12月10日終了コンサートの感想

18A - 0217

岩崎 久仁子

【児童アンケート用紙】

西宮子ども音楽セミナー 児童アンケート

がくねん _____ なまえ _____

問) 1 えんそうしたきよくで、すきなきよくを2つ をつけてください

- ・おおきなふるどけい ・ちいさなせかい ・オーハッピーデー ・さくら
- ・せいじゃのこうしん ・きよしこのよる ・あんたがたどこさ ・ひなまつり
- ・あかはなのトナカイ ・3だんのしらべ ・アロハオエ ・11匹のネコ
- ・ジングルベル ・うみ ・はるのおがわ ・むらまつり ・ドレミの歌
- ・かごめこわしちゃった ・せかいが1つになるまで

問) 2 えんそうしたがっきで、たのしかったがっきを2つ をつけてください

- ・ピアノ ・鍵盤ハーモニカ ・キーボード ・こと ・シェーカー
- ・ボンゴ ・カスタネット ・バイオリン ・すず ・ウクレレ
- ・ギター ・スティールパン ・二胡(にこ) ・ギロ ・クラベス
- ・たいこ ・トライアングル ・タンバリン ・ベル ・マラカス
- ・竹だいこ ・たいしょうごと ・リコーダー ・てっきん ・もっきん

問) 3 おともだちになったひとのなまえをかきましょう(なんにんでもいいよ)

問) 4 せんせいのニックネームをかきましょう(なんにんでもいいよ)

問) 5 いちばんたのしかった、プログラムをえらびましょう。

- ・ジャズたいけん ・バイオリンたいけん ・ががくたいけん
- ・フラメンコたいけん ・しゃくはちたいけん ・スティールパンたいけん
- ・わだいこたいけん ・せかいのがっき ・こうしコンサート
- ・しみんかんまつり ・リコーダーたいけん ・しゅわたいけん

問) 6 わいわいアンサンブルにさんかしてどうでしたか？

- ・たのしかった ・たのしくなかった

問) 7 おんがくが、だいすきになりましたか？

- ・なりました ・なっていません

問) 8 また、きかひがあれば、さんかしたいですか

- ・したい ・したくない

* 2006年12月3日配布 12月10日終了時回収

【保護者アンケート用紙】

西宮子ども音楽セミナー 保護者アンケート

- 1)性別 男性 女性 2)年齢 20代 30代 40代
- 3)セミナーに参加して子どもに変化はありましたか。 あった なかった
と答えた方理由(以下 は複数回答でも結構です)
活動的になった 共同性が養われた 自主的になった その()
- 4)学校教育とセミナーとの違いを感じましたか 感じた 感じない
と答えた方違いと思われる理由
異年齢の学習 学習成果の捕らえ方 人との相互学習 社会での総合学習
- 5)こどもがセミナーを楽しんだと思われませんか。 思う 思わない
と答えた方理由
友達との関り 音楽専門化との関り 講師との関り その他()
- 6)セミナーで音楽への興味が深まったか。 深まった 深まっていない
と答えた方理由
音楽全般 個別楽器の感心 歌や手話 リズムの楽しさ 5 その他
- 7)今回のセミナーで音楽のよさを感じられましたか 感じた 感じない
と感じた方の理由
音楽の充足感 共同作業 親との交流 専門家の楽器体験 その他
- 8)可能であればセミナーの継続を希望されますか。 希望する 希望しない
と答えた方の理由
学習への継続性 地域社会とのかかわり 自己形成 子どもの居場所
- 9) 行政へ継続の要望書を出す場合、署名されますか
署名する 署名しない
- 10) 現在の教育で必要なものは何だと思われませんか(1つ選択)
家庭教育 学校教育 地域での教育 社会全体のシステム
- 11) 今後、生涯学習として、どの分野の音楽指導が有効だと思われませんか。
音楽文化の普及 子どもへの指導 子育て支援 成人・高齢者への指導
- 12) 今後のセミナーが有料であっても参加されますか 参加する 参加しない
と答えた方。1回の受講料の金額(最大支払える額 1つ選択)
300円 500円 1000円

[セミナー終了の感想・生涯学習音楽指導員 NW 兵庫へのアドバイス・ご意見]

【西宮子ども音楽セミナー修了にあたっての感想】

| | |
|---------|--|
| A-14.15 | ・色んな楽器に触れ合う姿に感動。の方々との出会いがありました。 |
| M - 16 | ・音楽の専門家の方からも沢山の貴重な財産になると思いは驚きました。 ・音楽が体験出来た事など思えば活用していければと思います。 |
| B-2 | ・異業種の参加達との共同作業目標はなかなか練習聴通した時の喜びも体験でき出来なは楽器を鑑賞し実際に演奏の習い事にはない物だ本思に有意義でした。 |
| N 17 | ・親戚やお母さま位専門の楽器を習い始めて音楽を楽しむ。学校では未だ人数の ・ため何なりそは出来毎週楽しみ思いますがでも水又数楽器が揃って来ねなら出来るかななす。 ・音楽の習い事の様に思いますが。とても充実していましたが、有難う御座い |
| C-3 | ・まのセミナーが始まって以来2年間通わせていただきました。 |
| O-18-19 | ・音楽教室の前中は毎週楽しみながら通うので頂いたのズン来週からは際人お寂しいと思ひながら継続して知ってほしいと思ひ参加させました。 |
| D-4 | ・田舎に楽器や音楽、講師が習慣的交流は大変楽しかったです。 |
| E-5 | ・有難うございましてたくさんのお友だちとも知り合い、いろんな楽器にも触 |
| P-20-21 | ・毎回子供達が楽しみながら音楽の楽しさが深まったと思います。 |
| F-5、6 | ・帰省後は習った曲を残念歌うた雅躍の体験等は、で種々生親もとても感動し ・姉妹が参加できたのが親としてもとても嬉しかった。 |
| S-22-23 | ・お世話な楽器に触れ合う機会が楽しかったです。でただ興味を持って、楽し |
| G-7.8 | ・日曜日はなかなか参加で残念です。毎回違った内容で、今日は何 ・で継続を願ひながら親も子もわくわくしていました。 |
| Q-24 | ・楽回参加がる練習が色々な行事良重体験をさせながら子供たちは |
| H-9 | ・行けなは年毎の手供の事を知らず来し子供はるかた楽感も時々なた ・終想は欲しくないというのが今一番の思ひです。 |
| R-25-26 | ・親戚共々機会残念に思ひながら楽器来るわれなら常勤演奏を出た聴けて子供も喜ぶのでまずまず継続が願ひました。 |
| I-10 | ・毎週な楽器に触れ合う機会が楽しかったです。でただ興味を持って、楽し |
| T-27 | ・思ひますのが残念に思ひながら参加し、親戚共々機会残念に思ひながら楽器来るわれなら常勤演奏を出た聴けて子供も喜ぶのでまずまず継続が願ひました。 |
| J-11 | ・色々な場所終にはあんな親子共時に親の概念で体む事になった時などは不満 ・低料金を専門家に指導して頂ありがとうございます。 |
| | ・子供は毎週楽しみにしていました。 |
| K 12-13 | ・姉まで参加させていただきました。2人とも以前にもまして、音楽が好きなようになった様でセミナーで習った歌を一緒に家でも歌っていました。できれば今年も参加を希望していましたがとても残念です。 |

| | |
|---------|--|
| L-14.15 | ・子供達が音楽を楽しむ姿に感動 |
| M - 16 | ・音楽の専門家の方がこんなに沢山来てくださっていることに驚きました。 なかなか体験出来ないことだと思います。 ・異年齢のお友達との共同作業目標にむかって練習し達成した時の喜びも体験できたのではないのでしょうか。学校や他の習い事にはない物だと思いました。 |
| N 17 | ・親のうらやむ位専門の楽器をさわらせてもらいました。学校では大人数のためそんなことは出来なかったと思います。(小人数で目が行き届いていたから出来ることかな) ・音楽の芽が出た様に思われます。とても充実していました、有難う御座いました。 |
| O-18-19 | ・音楽教室のグループレッスンから個人のピアノレッスンに変わった際、アンサンブルの楽しさを継続して知ってほしいと思い参加させました。 ・いろんな楽器や音楽、講師の方々との交流は大変楽しい体験となりました。 有難うございました |
| P-20-21 | ・毎回子供達が楽しみにして行っておりました。 ・帰宅後は習った曲をよく歌ったり躍ったり二人で盛り上がっていました。 ・姉妹で参加できたのが親としてもとても嬉しかった。 |
| S-22-23 | ・お世話になりました、有難うございました。だんだん興味を持って、楽しくなってきたころに、おわりで残念です。 ・ぜひ継続お願いします。 |
| Q-24 | ・今回参加する回数色々な行事と重なり、すくなくは子供たちは行けない日もセミナーの事を口にして楽しんでいるんだと実感しました。 ・終わって欲しくないというのが今一番の思いです。 |
| R-25-26 | ・親子共々とても残念でなりません。出来ることなら月謝制にさせていただいてもかまいませんので、ずっと続けて頂きたいです。 ・毎週、日曜日を子供たちはとても楽しみにしていました。 t |
| T-27 | ・終了するのが残念です。回を重ねるごとに子供たちにとってはとても楽しみな場所になっていた様で、時に親の都合で休む事になった時などは不満そうでした。 |

* 2006年12月3日配布 12月10日回答

* 欠席保護者1名

* 数字の連番は兄弟、姉妹参加

【生涯学習尾音楽指導員、ネットワーク兵庫へのアドバイス・ご意見】

| | |
|---------|--|
| A-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・「今日はセミナーで何してきたの？」と聴くと「楽しいことお～！」という答えが、度々返ってきました。そのときの笑顔が、とても達成感に満ち溢れて、親の私の方も嬉しく清々しい気持ちになりました。 ・楽しい時間をすごさせていただきまして感謝しております。 |
| B-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生方には、大変お世話になり本当にありがとうございました。 ・今回のセミナーは、ご兄弟の関係で幼児の方も参加されていましたが、もし又このような企画をされるとしたら、小学生と幼児の方は分けてご指導いただけたらと感じました。 |
| C-3 | 無回答 |
| D-4 | <ul style="list-style-type: none"> ・これからも是非、子ども達のためにこのような体験をさせて頂きたいと思えます。 |
| E-5. | <ul style="list-style-type: none"> ・これからも活動を続けてほしいです |
| F-6.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢がバラバラの子ども達を温かく引っ張ってくださって感謝しております。 ・子ども達も毎日曜日にセミナーに参加するのを楽しみにしていました。これからも明るく楽しく活動なさせて下さい。 |
| G-8.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎週日曜日の朝から、たくさんの先生に集まって教えていただきありがたく思います。 ・いろいろな年齢の子ども達がいる、レベルも違い指導も大変だったのではないのでしょうか？どうもありがとございました。 |
| H-10 | 無回答 |
| I-11 | 無回答 |
| J-12 | <ul style="list-style-type: none"> ・また何か機会を作ってください参加希望です ・ありがとうございました |
| K-13.14 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導力のある方がセミナーを運営して下さり、子ども達も集団でのマナーやルールについて身に付けてくれたと思います。 |
| L-15.16 | <ul style="list-style-type: none"> ・出来るなら続けてください。 |
| M-17 | 無回答 |
| N-18.19 | <ul style="list-style-type: none"> ・こんな素敵な場があって子どもは幸せでした。 ・楽器、歌、リズム等、いろんなことを、専門知識のある指導員の方々に教えていただき、これで終了になるのが残念です。 |
| O-.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・有料で参加するのであれば、楽しいだけでなく、技術的な向上もないと意味がないと思います。異年齢の子どもたちの交流とはいえ、低学年の子どもばかり目立つのは、受験勉強のせいだけではないと思っていました。小 |

| | |
|---------|--|
| | <p>学生以下の子どもを受け入れた時点で、レベルはどうしても下がってしまいます。高学年の子どもには、かなりものたりないと写るのではないのでしょうか？ 幼児には良い経験ですが、もし私が小学生として参加しているとすれば練習する限りきちんと完成させたいと思うでしょう。セミナー自体は素晴らしい試みと思いますが、今後のあり方として何を主とされるかによって、参加するか、悩ましいのが、正直な気持ちです。</p> |
| P-21.22 | <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。 ・子ども達をうまくまとめていただき、本当にありがとうございました。 |
| Q-23 | <ul style="list-style-type: none"> ・どうかまたこんなセミナーをして欲しいとおもいます。 ・せっかく芽生えた音楽への愛情をこんな形で、終わらせたくないです。 |
| R-24.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習という観点からもっと期間を長くして子ども達の成長を見ていただきたいです。音楽が好きになり、自主性が芽生えたこの段階での終了はとても残念に思います。 |
| S-26.27 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく親も参加したいとおもいました。 |
| T-28 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生とも親とも違った、けれど大人の立場から子どもの目線になって、いろいろと教えていただいたように思います。 |

* 2006年12月3日配布 12月10日回答

添付資料5

【12月10日修了コンサートの終了後の感想】

| | |
|---------|--|
| A-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・修了するのはとても残念ですが、今までの集大成という感じで、胸がいっぱいになりました。大変お世話になりました。 |
| B-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・短い限られた時間で、たくさんの歌や楽器を演奏し、よく揃ってとても感動いたしました。そして私たちも楽しませていただきました。本当にありがとうございました。 |
| C-3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカル・手話・ベルその他色々な楽器を使って子ども達みんなが楽しんでいたのが印象的でした。 ・週1回の練習でよく覚えることが出来たなど、感心しました。 ・先生方、色々ありがとうございました。 |
| D-4 | <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに色々な体験をさせて頂いて、本当によかったと思います。 ・触れたことのない楽器を経験させて頂いて、素晴らしい時間を過ごせたと思います。 |
| E-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の笑顔がとてもよかったです。 |
| F-6.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しかったです。 ・どれも短い時間に、どの子もよく練習したなあと感心しました。 ・ありがとうございました。先生方お疲れ様でした。 |
| G-8.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・とっても可愛いコンサートでした。短期間であんなに色々な楽器が弾けるようになり、びっくりしました。 |
| H-10 | <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達とても頑張っていて上手になっていました。 ・とても楽しかったです。ありがとうございました。 |
| I-11 | <ul style="list-style-type: none"> ・短い練習時間で、あれだけ美しい音色を奏でられるようになるなんて、驚きとともに、素晴らしい力だと思います。 ・触れる機会がなければ、わからなかった力が出せて、すごいことだと思います。 ・子ども達の一生懸命な姿を見ることができ、うれしいです。 |
| J-12 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生のご苦労がよくわかります。指導が大変、準備が大変だと思います。 ・楽しいひとときを過ごさせて頂きました。ありがとうございました。 |
| K-13.14 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの集大成という感じで、最後の曲の時に、とても感激しました。 ・小さいながらも、一生懸命でよかったです。 ・いい体験をさせていただきありがとうございました。 |
| L-15.16 | <ul style="list-style-type: none"> ・感度です。もっと早く参加するべきだった。 ・次回あるなら、妹も絶対参加させます。 |
| M-17 | <ul style="list-style-type: none"> ・短い練習時間で、これだけのことが出来るなんて、、驚きました。 ・また機会があれば参加させたいです。 |

| | |
|----------|---|
| N-18 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しかったです。子どもにもあんなパワーがあるんですね。うらやましくなりました。 ・色々な経験させてもらってありがとうございました。 |
| O-19.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・非常に楽しく参加させて頂きました。大事な楽器を貸し出してくださった先生方に感謝いたします。ありがとうございました。 |
| P-21.22 | <ul style="list-style-type: none"> ・短期間で、本当によくまとめてくださったなあとおもいました。 ・親も毎回終了コンサートは楽しみに参加させていただきました。 |
| Q-23 | <ul style="list-style-type: none"> ・とても素敵でした。下の子がまだ未就学児なのにひとりで演奏している姿を見て成長したなと思いました。 |
| R-.24.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいいコンサートをありがとうございました。 ・今までの中で一番子ども達がいきいきとしていたと思います。 ・本当になくなってしまるのが残念です。ありがとうございました |
| S-26.27 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいコンサートで、先生たちに感謝しております。ありがとうございました。 |
| T-28 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を楽しんで欲しい、1対1もいいけど、出来ればみんなで楽しんで欲しい。そんな思いが通じたのか、とても楽しそうに演奏している、姿を見ることが出来て良かったです。 ・ご指導ありがとうございました。 |

* 2006年12月10日 終了時即回答